

1 昨年度の取組の成果と課題

- (1) 学習指導 : 教材の工夫。授業改善。学校としての統一した学習ルールの見直しと徹底に取り組む必要がある。
- (2) 生徒指導 : 「なかよし班」活動の充実。「あいさつ・言葉遣い」は、地域と連携して取り組む必要がある。
- (3) 地域との連携: 児童の興味関心や自主性を高める工夫。来校者を増やす工夫。

2 今年度の目標と目標達成に向けた方策

- (1) 基礎・基本の定着
 - ① 学習ルールを提示して共通理解を図り、学習ルールの徹底を図る。
 - ② 研究担当と一緒に取組み、校内研究の中で板書の構造化とノートの一体化を図る。
 - ③ 全家庭に「家庭学習のすすめ」を配布し、各学年の時間にあつた内容並びに量を出し、家庭学習の充実を図る。
- (2) 児童会と一緒に取組み、生活ルールの徹底
 - ① あいさつ運動並びに呼ばれたら「はい」と返事をする習慣をつける。
 - ② 掃除中しゃべらずに、時間いっぱい能率良く取り組む。
 - ③ 体育館や特別教室へ移動する時、静かに移動する。
- (3) 運動好きな子どもの育成
 - ① 全校児童が毎日昼休みに運動や外遊びをするよう取り組む。
 - ② 全校で短縄か長縄を使った活動に取り組む。
 - ③ 家庭と連携して、生活習慣の確立に取り組む。

3 学校関係者評価結果 評価基準 A・・・十分達成 B・・・概ね達成 C・・・やや不十分 D・・・改善を要する

(1) 重点目標に関する学校関係者評価

評価項目 (重点目標)	評価指標 (達成指標・取組指標)	評価	自由意見	学校関係者評価を受けての改善策
基礎基本の定着	学習ルールの徹底を図るため、先生方が常に意識し、声かけをする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末になるにつれ、どの学年も落ち着いた授業態度で向上がみられた。 ・教室内、校舎内の掲示物等が工夫されている。 ・授業の流れの分かる掲示の工夫がされている。 ・授業中話を聞いていない子、意見を進んで発表できていない子、ノートの文字が丁寧にかけていない子等、少し気になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ルールを年度当初確認をする。そして、学期の途中、学期末に振り返らせる。 ・授業の内容はもちろんだが、授業を受ける態度、ノートの文字など、四月当初共通理解を図り、徹底する。できていなければ、出来るまで指導する。 ・児童の作品の掲示はもちろん、授業の流れの分かる掲示に常に心がける。
	板書とノートの一体化を図るため、研修を深め全教職員で実践する。	B		
	学年にあつた内容、量の課題を出し、毎日担任チェックし、指導する。	A		
生活ルールの徹底	あいさつ運動に取組み、気持ちよいあいさつを先生方が率先して行う。名前を呼ばれたら「はい」と返事をさせる。返事をするまで何度でも呼ぶ。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子も進んであいさつができ、表情が明るくみえた。 ・学校ではあいさつができていても、地域の中では、いまひとつである。 ・「はい」と返事をすることは、学校だけでなく社会に出ても必要なことである。引き続き指導を。 ・無言清掃や静かに移動することはよい取組だ。日常生活が落ち着いてくると、授業の中でもいかにされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」については、再度考えさせ、学校・家庭だけでなく、地域の方々にも呼びかけていく。 ・生活ルール（「はい」と返事をする、無言清掃、静かに移動等）については、年度当初確認し、教職員が率先して行い、常に振り返らせる。
	無言で掃除をし、しっかり掃除をするよう常に声かけと、指導をする。	C		
	校舎の中で移動は、教師が付き、静かに移動する。	B		
運動好きな子どもの育成	昼休みに運動や外遊びをするよう児童を促し、教師も可能な限り一緒に遊ぶ。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも外で遊ぶ子どもが多いように思う。先生方の声かけが大切。 ・長縄や短縄の取組みは、よい。長く続ける工夫や声かけが必要である。しっかり体を鍛えてほしい。 ・基本的生活習慣は「家庭のしつけ」が第一だと思う。学校側だけの努力では難しいので、保護者との連携を強化して、まずは家庭から。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりについては、四月当初年間計画、学期ごとの計画を作成し、教職員で共通理解を図り、取組んでいく。 ・基本的生活習慣については、アンケート調査をしたり、点検票を作成したりするなどして、養護教諭と一緒に取組みを進めていく。
	取組みカードを使い、体育の授業や遊びで長縄や短縄を使った活動に取組む。	B		
	めあてを決めて生活習慣の改善を図り、生活アンケート等を行い、個別指導をする。	B		

(2) 学校訪問等を活用した学校関係者評価

評価項目	意見	学校関係者評価を受けての改善策
校長の学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との関わりを大事にしながら、学校長を中心に働きやすい職場づくりをされている。 ・子どもたちや教職員に対して、深い理解と指導がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童の実態から取り組むべき課題をつかみ、事項の特色を活かして、保護者や地域の方々の願いに応えるよう学校経営に取り組む。 ・教職員一体となって、組織として指導が出来るよう来年度も体制作りに取り組む。
教職員の教科指導等について	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具が工夫されており、教室環境にも活かされていると感じる。 ・学力調査等の結果を分析しながら、弱点を踏まえて今後の授業を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も校内研究を中心に、授業研究や互見授業等をとおして学校組織として共通理解を図りながら取り組む。 ・授業態度を含め、学習ルールの徹底を図る。 ・特別支援教育の充実。
児童生徒の学習・生活態度について	<ul style="list-style-type: none"> ・学期が進むにつれて、高学年は落ち着きができた。 ・先生や友達の話をよく聞き、積極的に学習しようとする意欲がみられる。 ・授業中の態度や姿勢の悪い児童が目立つ。 ・あいさつは、構内では出来るが、郊外ではできていないのでは？（知らない人だからかも・・・） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」については、学校だけでなく、家庭や地域にも呼びかけ、連携を密にして徹底して指導していく。 ・授業態度を含め、学習ルールの徹底を図る。

4 設置者への要望

--